

月刊「キリスト教書評誌」

# 本のひろば

January  
2022

1

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年1月1日発行(毎月一回1日発行)第769号

● 出会い・本・人

私たちは人生で、何冊の本を読めるのだろうか

大石周平

● 特集 詩と詩編にふれるなら

この三冊！ 横山良樹

● 本・批評と紹介

ストーミー・オマーティアン著／日本聖書協会訳

ひと時の黙想 全き心を求めて 吉川直美

関野和寛著 ひとりで死なせはしない 石丸昌彦

マルティン・ルター著／金子晴勇訳

主はわたしの羊飼いです 大島征二

斎藤惇夫著 子ども、本、祈り 笹森田鶴

ジャック・エリユール著／新教出版社編集部訳

アナキズムとキリスト教 塩野谷恭輔

奥田知志著 ユダよ、帰れ 関田寛雄

金子晴勇著 東西の霊性思想 片柳榮一

河野勇一著 人はどこから来て、どこへ行くのか？ 山口希生

松谷好明訳 三訂版 ウェストミンスター信仰規準 青木義紀

ジョン・ポール・レデラック著／水野節子、宮崎 誉共訳／西岡義行編

敵対から共生へ 久保木聡

ヴェロニカ・コベルスキ著／澤村雅史訳

神学は語る パウロと律法 浅野淳博

# 教会政治の神学

改革派の教会政治原理とは

吉岡契典著

(よしおか・けいすけ氏は日本キリスト改革派板塾教会牧師)

11月25日

教会政治はなぜ真剣な神学的考察の対象とされてこなかったのか。研究史を顧みてその偏りを批判しつつ、改革派教会の教会政治原理を探究する。「大森講座35」◆四六判・定価1100円

# 旧約聖書 律法書

要約と概説

11月25日

宮平望著

(みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授)

新シリーズ(全4冊) 刊行開始

創世記から申命記までの五書(律法書)の内容を要約し、そのメッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込んだ、旧約を学ぶための好個の手引き。◆A5判・定価2200円

# ヴェーバーとフランクリン

梅津順一著

神と富と公共善

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で資本主義の精神の体現者とされたフランクリン。その事蹟を丹念に辿り、初期資本主義の担い手となった人間像を明らかにする。同時

に現代資本主義を克服する道をも探究する。◆四六判・定価4950円



# ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む

大反響

奥田知志著 コロナ禍で鮮明となった、人間を孤立させ、希望をくじく社会に、著者は、聖書の深い読みと長年の実践に裏付けられた洞察をもって、福音を大胆に対置する。著者の説教者としての面目躍如たる15編。◆四六判・定価1980円

# 遺跡が語る聖書の世界

長谷川修一著

(はせがわ・しゅういち氏は立教大学教授)

聖書の世界の人々はどんな家に住み、何を着て、いかなる食生活を送っていたのか? 貨幣や暦は? 聖書考古学の第一人者が、興味尽きないテーマを平易に解説。◆四六判・定価2310円

興味尽きないテーマを平易に解説。

プレゼントにも最適!

## 2022年

## 渡邊禎雄版画カレンダー 発売中

「子供たちを私のところに来させなさい」と語るキリストの眼差しは、小さく弱い者への慈愛に満ちています。ご注文はキリスト教書店もしくは小社まで。◆定価 550円



## 渡邊禎雄聖書版画集 くすしきみわざ

代表作73点を収録。解説・神田健次。◆定価 5500円



私たちは人生で、何冊の本を読めるのだろうか

大石周平

牧師職を休んでスコットランドに留学中の伯父を頼り、大学生で初めて一人海外に飛んだ。伯母と伯父を訪ねる喜びは、幼い日に親に連れられた頃から変わらない。人生の先達に、助言を求めたい心境もあった。多いはずの将来の選択肢から何を自分の道と捉えるか。抱いていたのは漠然とした悩みだ。

聞けば昔、30代の両親が伯父の牧師館に通った理由も、親戚づきあいのためだけではなかったらしい。土曜夜遅く、時には日曜朝まで牧師夫妻を煩わせた人生問答を通し、まずは父の心が動かされたという。ほどなく一家で教会にも通い始め、あるクリスマス礼拝に、家族五人で受洗した。

渡英時の会話では、紅茶の美味しい昼下がりに、伯父がふと漏らした咳きが忘れられない。「周平さん、仮に人生80年と見積もって、あと何冊読めるか現ペースで数えたら、これがあまりに少ないんだよ!」。本の虫のこの一言には驚いた。同時に、詩編90編が共鳴して思い浮かぶ。「生涯の日を正しく数えるよ

うに教えてください」(新共同訳)。この祈りに心寄せるうち、若い日に聖書という「多声の一書」と出会えた一事に意義があると思いついた。み言葉を巡り与えられた、神と人との信実な出会いの深さ・長さ・広さと重さが私に迫る。私の選択肢は多くはない。教会に与えられた場所があると思つた。

帰国時、伯父がくれた手紙に、あのクリスマスの洗礼が想起されていた。当時伯父は牧会上最も悩み多い日々にあつたという。しかしあの一日ばかりは千年のようで、神がこの日のために私たちを当地に召されたように感じた、と。読んだ私は、生涯の日々を正しく数える人と共なる一瞬一瞬を、神に感謝せずにはおれなかつた。

(おおいし・しゅうへい || 日本キリスト教会府中中原教会牧師)



## 詩と詩編にふれるなら

# ▼この三冊！

## 横山良樹

(よこやま・よしき) 日本基督教団半田教会牧師、名古屋学院中高校院長

民族の精神は、最初に詩にあらわれると聞いたことがあります。万葉集、ラマーヤナ、オデユッセイア、カレワラ等、世界各地に、その民族を代表する叙事詩や歌があります。日本にもゆたかな詩歌の伝統が息づいています。

詩に興味をもつようになったのがいつ頃か、はつきりと思いつくことは出来ません。家族で百人一首に興じたからか、父の書架にあった黄ばんだ三好達治や萩原朔太郎の詩集を手にとったからか、高校の授業で漢詩を暗唱させ

られたからか、いつのまにか詩歌に、特別な思いを持つようになりました。今回は、詩とユダヤ民族の精華と言つてよい詩編にふれるための三冊を紹介します。

### 茨木のり子「詩のころを読む」

詩のジャンルでいえば現代詩を扱っています。岩波ジュニア新書のなかの一冊で、自身すぐれた詩人であった著者が選びぬいた詩のかずかず愛情あふれる言葉がそえられ、多くの詩人へ

が近年、目につくようになりました。

### W・ブルツゲマン「詩編を祈る」

もうひとつ、この本に述べられている知見でナルホドと頷かされたのが、「つづまるところ、詩歌は、一人の人間の喜怒哀楽の表出にすぎないと思うのですが」とことわって、日本の詩歌は「哀」において数多くの傑作を生み、「喜」や「楽」にも見るべきものがあるが、「怒」の部門が非常に弱く、外国の詩にくらべるとそこがアキレス腱と思われる、とした箇所です。わたしたちの国民性を思わされるではありませんか。そしてこの「怒」の部分に大胆に踏み込んであるゆえに、わたしたちにおさめられた詩編ではないでしょうか。古今東西、詩編についてはさまざま本が出版され、汗牛充棟のありさまですが、この「怒」にまつわる論考

と導いてくれました。工藤直子、黒田三郎、金子光晴など大好きな詩人となりました。その後も新しい出会いを求めていろいろな詩のアンソロジーに手を出しましたが、入門篇にして決定版との気持ちは強くなるばかりです。

ところで詩とはなんでしょうか。どのように定義すれば詩の本質を言い表したことになるでしょう。茨木のり子は「言葉が離陸する瞬間を持つていないものは、詩とは言えません」と述べていて、これは言い当てていると思います。それを便所掃除をうたった詩をあげて説きあかす箇所はこの本の白眉と思いますので、ぜひご一読ください。そしてわたしは牧師になってしばらくして、この定義は説教にも当てはまると思うようになりました。言葉が離陸する瞬間を持つていないものは説教と言えないのではないか。それは解説や意見表明にすぎず、信徒を神の恵みの

W・ブルツゲマン「詩編を祈る」

詩編は全一五〇篇、律法・預言・諸書からなるユダヤ教正典においては諸書の部の巻頭におかれています。この構成は「律法と預言者」に示された神の言葉と御業への応答として、詩編が位置づけられていることを意味します。ブルツゲマンはアメリカ旧約学の泰斗であり、多数の著作があります。すぐれた聖書学者である著者が、神の御前に立つ一人の信仰者として、詩編を、わたしたちの信仰生活に取り戻そうとする姿に励まされます。「詩編を信仰の行為として、礼拝の行為として、祈りの行為として受け入れる」ことを目的とする本書は、深い学識に裏打ちされ、詩編を祈りとしてもちいる際の方角性と問題を指摘します。

教会員が、祈禱会のあとでポツリと

もらった言葉が忘れられません。「粹(かみしも)を着たような祈りしかできない。祈る前に、こんなことを祈ってはいけないと自分でセーブしてしまう」と言ったのです。こんなことを祈って是不謹慎と自己規制し、結果、あたりさわりのない祈りしか出来ずに、祈りから遠ざかってしまう経験はだれでも覚えがあると思います。しかし、順境の時はいざ知らず、逆境に叩き込まれた時、助けを求めずにおられるでしょうか、不治の病を告げられた時、犯罪に巻き込まれた時、突然のリストラ等、青天の霹靂のようにおとずれる人生の不条理に打ちのめされる時、わたしたちは言葉を失います。そこに語る言葉を与えてくれるのが詩編です。ブルツゲマンは「我々の経験を詩編に触れさせる」ことを提唱します。人生におとずれる混沌や無秩序、逆境における方向喪失の現実、生々しい人間の

現実のなかで経験した事柄を「巧みな言葉と情熱をもって聖なる方に敢えて語りかける声」を詩編が与えてくれるのです。それは行儀のよいわたしたちの祈りとは対極にある無遠慮で、荒々しい抗議、不満、嘆願、そして報復をもとめる祈りの言葉となつてあらわされます。このような「対話の勇氣」をもって祈る時、それはわたしたちを、新しい神との関係にいざなうものとなります。詩編のなかに表出する怒り、さらに報復の感情はあまりにユダヤ的であるために扱いにくく敬遠されがちです。ブルッゲマンは「『ユダヤ人の領域』にいるキリスト者」「復讐―人によるものと神によるもの―」という章を別にたて、ユダヤ教とキリスト教の信仰のニュアンスの違いを安易に和解させることを戒めつつ、この問題にも切り込んでいます。

### 飯謙ほか「聖書協会共同訳 詩編をよむために」

二〇一八年に発行された「聖書 聖書協会共同訳」の詩編翻訳に携わった五人により一書が編まりました。詩編の構成や文章技法、復讐の詩編や、詩編を日本語で歌うことなど、バランスよく目が配られ、適価で、聖書研究や贈り物にもよい入門書です。

そのなかの第四章「天を仰いで神に歌う―悲しみ、嘆き、報復の詩がなぜ詩編にあるのか」(石田学)は必読です。呪いや報復を願う言葉をもつ詩編の重要な意義について、「深い悲しみ、嘆き、報復への願いこそは、人が最も神を必要とし、最も切実に神に祈る時」であり、「そうした体験を信仰から切り離し、信仰の詩から取り除いてしまうとしたら、その信仰は全存在的なものではなくなる」という指摘は正鵠を射るものです。

る「幸いな者 お前の幼子を捕らえて岩に叩きつける者は」(詩一三七篇九節)という声は戦時下の暴力にさらされた人々の主観的な真実です。こうした深い嘆きや悲しみはすぐに癒やされることはありません。体験した苛酷な現実を受け入れるには共感による分かち合いや、嘆きの声、熱い涙、のろまな時のひと打ちを要します。不条理を

神の摂理のなかに位置づけ、受け入れるには聖なる諦念を必要とすることです。これらの報復の詩編をもちいることを通して、人々は悲嘆のプロセス(グリーフワーク)を経験しているという石田学の指摘は見逃せません。詩編は個人の悲劇や民族の歴史的破局をも乗り越える力を与え続けてきたと言つてよいでしょう。

エルサレム考古学公園ビクターセンターの歴史パネルを見て唸ったことがあります。カナン時代(一三三〇〇)、イスラエル時代(一〇六六)をへて、バビロン捕囚(五八六)以降はペルシア期、ヘレニズム期、ローマ帝国期、ビザンチン帝国期、初期イスラム期、十字軍期、マムルーク期、オスマン帝国期、イギリス期と切れ目なくつづき、イスラエル共和国(一九四八)となつていたので。これはエルサレム定点観測の記録であつて、はたして民族の歴史なのだろうかと考え込みました。中国にも元(モンゴル族)や清(満州族)の支配の時代がありますが、イスラエルは約二千五百年間、異民族支配下なのです。旧約聖書に記されるイスラエルの歴史は神の民の滅亡の記録ですが、その後の歴史においても民族の嘆きは絶えることなく続いたのです。征服者バビロンへの呪詛と報復を求め

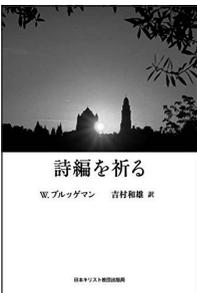
最後に、軋みの増す国際情勢や気候変動による災害の多発する現状を思いますと、伝統的なキリスト教の枠におさまりきれない深い悲しみ、嘆き、報復の詩編を、わたしたちの信仰生活に取り戻すことは、牧会者にとって喫緊の課題であると思われてなりません。

### 『詩のころを読む』



茨木のり子：著  
岩波書店  
1979年  
新書判 242頁  
990円

### 『詩編を祈る』



W・ブルッゲマン：著  
吉村和雄：訳  
日本キリスト教団出版局  
2015年  
四六判 184頁  
2,200円

### 聖書協会共同訳 『詩編をよむために』



飯謙、春日いづみ、石川立、  
石田学、西脇純：著  
日本聖書協会  
2021年  
A5判 160頁  
1,210円

## 傷んだ世界を 癒やす素朴な祈り

〈評者〉 吉川直美



ひと時の黙想  
全き心を求めて

Stormy Omer-Tylian 著  
日本聖書協会訳



丁寧な執筆依頼とともに届けられた小さな本——手に取って見ると、そこには五感で味わう祈りの小宇宙がありました。素朴な野の花の挿絵、レイアウト、書体、手触り、重さに至るまで、慈しみと調和に満ちています。その上、昨今の出版物には珍しく、糸で綴じられているので、喉奥まで開いても本が割れることはありません。つまり、読者が日常の様々な場所で開き、長年にわたって愛読することを想定して造られているのです。そこに編集者の愛と信頼を見る思いがしました。

本書は、同サイズの黙想シリーズの四作目にあたります。著者はストミー・オマーティアン。子どもや夫婦、あるいは自分自身のため、成育過程で傷ついた人のため、というように現実に根ざした祈りの書を数々手掛けていて、祈りによって人生を変えたいと願っている人にとつての心強

い導き手となっています。

さて、それにしても本書はシンプルです。毎日の黙想書と言えば、その日の聖書箇所から著者が受け取った促しや慰め、時には鋭い問いかけなど、読者へのメッセージが綴られていることが多いのですが、オマーティアンはごくごく短い聖書のことばに、「主よ」で始まる素朴な祈りを、昨日も今日も明日も、ただただ静かに捧げています。

しかし、彼女の導く祈りには確固たる目的があることが「初めに」で明かされています。それは祈りを通して、「全き者」(whole)となることです。私たちは「全き者」と言われると、完璧(perfect)を思い浮かべてしまい、とても無理だと怖じ気づいてしまいます。

ところがオマーティアンは、全き者とは「神がお造りになった私たちの姿そのもの」、全き心とは「負の感情を持つ二週間ごとに、「人を救し、過去から自由になりたいとき」というようにテーマが立てられているので、今の自分に必要なテーマを選んで祈ることもできます。

傷んだこの世界にあつて、二人三人と、この小さな本を手にとって、素朴な祈りを捧げていくなら、やがて一日一日の祈りが響き合い、ひとりひとりの祈りが重なり合い、私たちはきつと癒やされていくでしょう。新しい年、信仰共同体の仲間と共に読むならば、弱さや限界を抱えた自分に呻きつつも、いつしか神に愛された作品として、共に未来を生きたことができるでしょう。——主よ、信じます。どうかそのために、本書を用いてください。

(よしかわ・なおみ・シオンの群教会牧師、聖契神学校教師)  
A 6判変型・四三二頁・本体一九八〇円・日本聖書協会

## 日毎の聖句とメッセージ、祈り 黙想シリーズ

### ひと時の黙想 全き心を求めて

ストミー・オマーティアン 著



NEW 詳しくはこちら

キリストにある  
自分を知る、日々の祈り。

キリストにある私は全き存在—この真実を心に刻み、自由にされて生きるために。祈りの人として知られる著者が、聖書の御言葉を一つずつたどりながら「キリストにある自分とは何か」を確かめていく素朴な祈りをつづります。  
●432頁 ISBN978-4-8202-9278-4

ひと時の黙想  
主と歩む365日  
マックス・ルケード 著  
●404頁  
ISBN978-4-8202-9273-9

1分間の黙想  
心からの祈り  
カレン・ムーア 著  
●400頁  
ISBN978-4-8202-9264-7

1分間の黙想  
祈りの力  
エドワード・M・ハウズ 著  
●400頁  
ISBN978-4-8202-9238-8

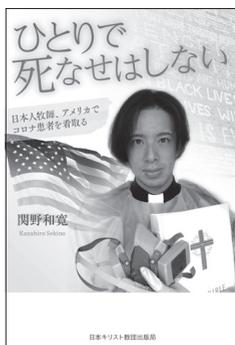
日本聖書協会 訳  
●縦135mm×横103mm  
●合成皮革装  
●スリーブケース入り  
税込価格 1,980円  
(本体1,800円) 詳しくはこちら

お求めは全国のキリスト教専門書店  
またはwebへ

JBS 日本聖書協会  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル  
e-mail: distri2@bible.or.jp  
https://www.bible.or.jp/

# 生死を超えるいのちを伝える チャブレン・ロッケン体当たりの日々

〔評者〕 石丸昌彦



ひとり死なせはしない  
日本人牧師、アメリカで  
コロナ患者を看取る  
関野和寛著



この著者による、このタイトルである。書評など書こうというのがヤボな話、本が勝手に声を挙げ、自らを証するだろうとの予想は見事に的中した。多言を要せず、ともかく手にとって開いてみてください、決して損はさせません。書くべきことはこれで全てである。以下は蛇足。

歌舞伎町の教会の扉を「ドガン！」と叩いて訪れる、人々の生きる悩みを十数年受けとめてきたロッケン牧師が、こともあるうに世界を覆うコロナ禍のまっただ中、アメリカはミネアポリスの病院でチャブレンとして働きはじめた。何重かの「無理」の重囲も、著者にとっては闘志をかき立て、意欲をおおるものでしかないらしい。

その昔、ダウン症の妹さんが危篤に陥った時のことを著者は語る。絶望に沈む著者らのもとへ親しい牧師が新幹線で駆けつけ、家族しか入れない集中治療室に「家族です」

赤ちゃんに、洗礼を受けさせたいと両親が望んでいる。さすがに著者の心は重い。すでに息を引き取っているか、良くて瀕死の赤ちゃんを前に、極限の悲しみにくれる母と父、そこで「洗礼だとか永遠のいのちだとか、宗教儀式や言葉が慰めになるのだろうか……」と。

次の瞬間、著者の恐れと疑いは打ち砕かれた。扉を開けると、そこには生まれた赤ちゃんの小さな微笑があった。赤ちゃんを抱く母親、母子を抱きしめる父親、彼らをとりにまく祖父の穏やかな笑顔、そして父親が言う。「時間がありません。どうぞ洗礼を授けてください」。

著者は祈る。

「神よ、あなたがいのちをつくったのであれば、死もあなたがつくったもの。生も死も全てあなたのもの。生と死

と名のつて乗り込み、妹さんと家族のために祈ってくれた、その姿を見て牧師になることを著者は決意した。ぶれない決意のまっすぐ先に、今この時の著者がある。

「アメリカの人々は『こんな最悪の時によく来てくれた！』と言う。確かに人の目からすれば、疫病、暴動、分断が渦巻く最悪の時だろう。けれども皆が無理、最悪と呼ぶ時間と場所のど真ん中に誰かが飛び込まなきゃ何も始まらない」。

歌舞伎町の教会では、人々の苦悩が扉を叩いてやってきた。いま著者は扉を押し開け、自ら病室へ入っていく。その肩越しに読者もその場を覗きこむ。あたかも自分の心の深みを手探るように、この世の現実に触れていく。

とりわけ心に焼きつくのは、クリストファーの逸話である。在胎中から重い障害を負い、死産になるかもしれない。をはるかに超えた大きないのちの力でクリストファーを守りください！ この永遠のいのちの証しである洗礼をクリストファーに授けます」。

著者の行動は捨て身の体当たりの連続であり、著者自身が「この時、この人に会っていないければ、どうなっていたかわからない」とくり返し述懐する。しかしそれはけっして僥倖などではない。必要な出会いは必ず与えられ、会わねばならない相手とは必ず出会えることを、彼は体で知っている。僕らも知っているはずのことではなかったか。

がんばれロッケン、負けるな関野、君をひとり死なせはしない！

(いしまる・まさひこ) 放送大学教授、精神科医  
(四六判・一二八頁・定価一四三〇円・日本キリスト教団出版局)

説教黙想探求の集大成！



# み言葉打ち開くれば 光を放ち 加藤常昭 説教黙想集

半世紀にわたって『説教者のための聖書講解』『説教黙想アレテア』の両誌等に寄稿してきた65本をまとめた珠玉の説教黙想集。  
A5判上製・610頁・定価7700円

新約聖書に関するクイズが満載！



# 新約聖書おもしろ クイズドリル

辻学 監修

○×、4択、穴埋めクイズなどの300問以上のクイズを収録。クイズを解きながら楽しく新約聖書を学べる。  
A5判並製・96頁・定価1100円  
\*旧約編好評発売中！(定価1100円)

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)  
https://bp-uccj.jp

流れのほとり  
植えられた木の幸い

〈評者〉大島征二



主はわたしの羊飼い  
詩編一編、八編、二三編の講解  
マルティン・ルター著  
金子晴勇訳



ルターと『詩編』に親しむ好個の書がまた一つ与えられた。ルターの詩編講解の中から選ばれた三編から成る本書は、金子晴勇氏の最新の翻訳である。名著『ルターの人間学』以降多くの著作と翻訳によって、氏がルター研究に止まらず、広くキリスト教人間学を先導しておられることは紹介するまでもないだろう。

ルターにとって『詩編』が旧約聖書の中でも特に親しい文書であったことは、彼の『詩編への序言』（一五二八年）の言葉に明らかである。駆け出しの聖書学教授ルターが一五一三年最初の本格的講義で選んだテキストが『詩編』であり、さらに『九五箇条の提題』が惹き起こした事態の渦中で、一五一九年に再び詩編の講義が試みられている。

『詩編』はルターの改革思想の源泉の一つである。詩編講解の地下なしに『ロマ書』における「神の義」理解の大

転換も生じなかったであろう。ルターは「詩編の全編を完全に暗記するほど習熟」（金子）していたそうだが、『詩編』は彼にとって旧約の中の福音書であり、救いの約束、福音は、日々の生活においては身近な慰めと励ましのことばでもある。

第一編の講解は、自ら惹き起こした事態の先行き定かならぬ状況下でなされたもの。不敬虔な者の「二重の罪」や「仮面と偽善」といった表現は腐敗した教会体制への糾弾であり、当時の雰囲気が見られる。他二編と異なりルター版ドイツ語聖書はずっと先のこと。ヴルガタとヘブル語テキストに拠って、語義的、比喩的、転義的釈義方法に則ってなされる講解はいかにも大学での講義らしい。中核をなす三節の講解が『キリスト者の自由』で「みごとに」詳論されるとの訳者の指摘は鋭い。

ルターは詩編八編にキリストについての「燦然たる預言」を見出し、「彼について説いて聞かせる機会をもつために」本編を取り上げたと言頭述べている。「キリスト論が詳しく語られる」（金子）当講解は、ルター晩年の平易に語られたキリスト論綱要として、第一編の講解における信仰の実存論と時を隔てて対をなしている。

二三編の講解は、五二歳のもの。ルターの肖像画を見ると壮年期の体形に青年期の瘦身の面影はない。肥満は健康状態の指標の一つであるが、四〇代後半以降彼は結石等種々の病に苦しんだという。前年からの九〇編の連続講解で、「死のさ中であってわれわれは生のうちにある」と死を見据えて喝破したが、当講解もまた死を直視し克服しようとする彼の信仰的省察の一大結晶である。「これよりも

優れた『慰めの書』がないほどに優れた内容」という訳者の解説は大いにうなずける。

当該三編を翻訳した理由を訳者は「一般に愛唱されているから」と記しているが、それぞれの講解を読むと、ルターが各詩編の中から掘り起こしたメッセージの豊かさに驚き心動かされる。金子氏は詩編九〇編、五一編、四五編のルターによる講解を既に翻訳出版しており、今回の翻訳と合わせて、信仰の糧である選りすぐりの諸編を身近に読めることは大きな喜びである。病軀をおしての訳業に衷心から感謝したい。

（おおしま・せいじ）信州大学名誉教授  
（四六判・二一六頁・定価二九七〇円・教文館）

神学ダイジェスト131号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2021年12月発行  
A5版120頁  
定価640円（税込）

特集 今日のマリア論  
卷頭言 今日のマリア論について  
神学の内に示されるマリア論の新たな方向性 M マッケンナ  
貧しい人々と現代の「霊」が示すマリア I ゲバラ他  
マリア研究の母体としてのガリラヤ E・A ションソン  
正教会とカトリックにおけるマリア B・E デイリー  
カパシラスの『受胎告知』についての説教 P・プロスベリ  
聖ヨセフ年―父の心で― J・アロシヨ|| エステヴェウス  
●連載 私は思ったより大丈夫 ホン・ソンナム

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

おどろきの心を自らの  
子ども時代に向かわせる

〈評者〉 笹森田鶴



子ども、本、祈り  
斎藤惇夫著



著者はあの「ガンバの冒険」シリーズの児童文学者であり、福音館書店の編集者でもあった方だ。けれども子どもたちは、物語は知っていても「斎藤惇夫」という名を知らない。そのような子どもたちの世界に喜寿を目前に飛び込み、一瞬一瞬の出来事の積み重ねがたぐ子どもたちの世界に在ることを幸せだと著者は思っている。そして時に子どもたちから「園長」と呼び捨てにされることを楽しみ、子どもたちも毎日一緒に本気で遊んでいる眼の前のおとなへ親しみと平等性をもって接している。

浦和諸聖徒教会を母体とする麗和幼稚園での日々の出来事や保護者向けの文書による、I章「子どもたちの息吹に触れながら」から本書は始まる。おとなになって忘れてしまっていることの発見に心動かされ、うっかり子どもと張り合ってしまう。子どもたちと「遊んで、遊んで、遊んで、遊び死ななかつたのが不思議なぐらい」に過ごしたいと願

い、子どもたちに騙されたりうろたえたりしながら、子どもたちの心の中の出来事に近づき、わずかでも触れることを喜びとする様子が描かれている。

II章「今日の祈り」ではI章でのそのような出会いの中で紡がれた祈りが柱となっており、I章からの祈りの続編やまとめにも思える。物語を通して子どもたちの心や体が開放される世界こそが神の世界だと確信し、子どもたちが絵本の世界と現実の世界の両方を生きていくことを望み、そのためにずっと昔から祈り続けていた情熱が伝わってくる。著者にとって子どもたちの息吹は神の息吹なのだ。

後半のIII章、IV章では園長就任以前に書かれた文書が集められており、読み進めていくと時代を遡っていく。本書の世界観が前半にあり、後半の部分はその世界観に辿り着くためのプロセスを読者が追う構成になっている。

III章「愛書探訪」では、子どもたちの世界が時間と空間

を越えて昔話や神話や物語によって広がっていくための絵本や物語についての解説や紹介がなされる。IV章「子どもたちを本の世界に導くために」では、タイトル通りに子どもたちを本好きにするためのおとなの心構えやおとながするべきことを指南する。まっすぐに明快に、それぞれの物語の深淵を、また物語の出来事や情景や心情におとなが心震わせることによって、子どもに読み聞かせることの意味や内実が伴うことを熱く伝えてくれる。人生における喜びや楽しみと同様に苦痛や別れの悲しみが大きいことを考えると、子どもたちが安心して物語の旅に出かけるためには親しいおとなたちの介添が重要であるとも励ます。

本書は自然とおとなの読者の心を自らの子ども時代に向かわせる。一つ一つの園での出来事に心揺さぶられ、泣い

たり笑ったりしながら読み進めてしまう。いつもは思い出もしない子ども頃のきらきらしたかけがえのない一瞬が、どれほど愛と調和と冒険に満ちた絶対的なすばらしい世界であり、今の自分を支えているかを思い出させるのだ。そして子ども心にとって大事なものは、すべての人間の心にとって大事であることを教えてくれる。もう一度本書に取り上げられた物語に自ら触れたいという衝動を起こさせる。今のこの時代にこそ読むべき一冊である。

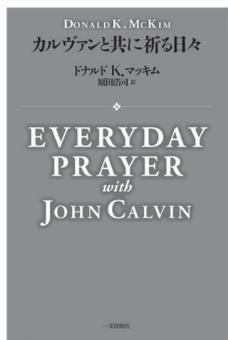
絵本の絵が物語を補完し、また原風景へと誘い、静謐、高雅、清廉を伝えると著者は言う。描き下ろしの出久根育さんのカバー画と挿画もこの本のすばらしさに加えられる。

(ささもりたづ) 日本聖公会東京教区司祭  
(四六判・二七六頁・定価一六五〇円・教文館)



カルヴァンと共に  
祈る日々

ドナルド・K・マッキム  
原田浩司\*訳



カルヴァンの珠玉の言葉と  
マッキムの聖書に即した黙想が  
わたしたちを  
祈りの人へと導く

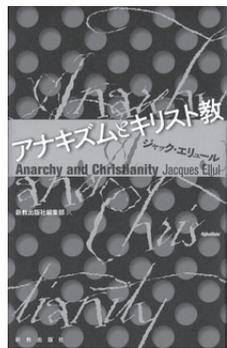
四六判  
定価 2,200 [本体 2,000 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-126-7



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

## アナキズムによる キリスト教の原点回帰

〔評者〕 塩野谷恭輔



アナキズムとキリスト教

ジャック・エリユール 著

新教出版社編集部訳



ジャック・エリユールは、二十世紀フランスにおいて社会学や神学の分野で活躍した左派知識人である。日本での知名度はあまり高くないが、欧米ではイヴァン・イリイチやコルネリウス・カストリアディスに影響を与えた思想家としても知られている。エリユールは左派といってもマルクス主義者ではなく、本書のタイトルからも察されるようにアナキストであり、そして同時にクリスチャンでもあった。

とはいえ、一九八八年に刊行された『アナキズムとキリスト教』と題された本書でエリユールが試みるのは、この両者のたんなる総合ではない。そうではなくて、アナキズムとキリスト教信仰のあいだにある一種の緊張感こそがむしろ、エリユールの思想の、そして本書の魅力を生み出していると言えよう。

あるということだ。アナキキーに対するこうした積極的な意味づけは、もちろんエリユールのオリジナルというわけではない。だが歴史的な事実として、左派はこれまでアナキズムといふアナキーを、社会を無秩序へ誘うものとしてしばしば斥けてきた。それゆえにアナキズムを擁護する思想家たちは、今日にいたるまで、この「アナキー」という語に積極的な意味や価値を見出そうと繰り返し試みてきたのである。たとえば、カトリクス・マラブーが近刊『抹消された快楽』でブルードンを引いて言うように。

紙幅の都合上、詳細を追うことはできないが、既存のすべての政治形態を斥けて新たに創出しなければならぬと謳うエリユールの政治思想は、確かなキリスト教信仰と運動経験に支えられた極めて現実的なものでもあり、昨今の

本書の構成を述べておこう。本書は序章と補論を除けば二部からなる。第一部は「キリスト教の立場から見たアナキー」と題されているが、ここで論じられているのはエリユールのアナキズム理解であり、またそうした立場からの既存のキリスト教（会）批判である。エリユールにとって、アナキズムの立場からするキリスト教批判あるいは糾弾が必要なのは、それがキリスト教を正しい聖書の理解やそれに相応しい振る舞いへと立ち戻らせる根拠となるからであるという。続く第二部では、それまでの議論を踏まえた上で、ヘブライ語聖書から新約諸文書までの読解が示されることになる。

ここで重要なのは、エリユールが聖書の読解から取り出そうとする「アナキー」とは、（当然だが）たんに「無秩序」を意味するのではなく、権威・権力や支配の排斥でやるや硬直した政治状況に力強く新鮮な風を吹き込んでくれるだろう。

最後になるが、邦訳本書のもう一つの大きな魅力は、その充実した訳注にある。『古典』の例に漏れず、本書にも今日から見れば若干の事実誤認が含まれるが、本書訳注がそれらを正すにとどまらず、登場する多くの固有名詞に詳細な解説を施してくれていることで、エリユールのテキストはその歴史の厚みとともに我々の前に立ち現れてくるのだ。そしてこのことは、原書の刊行から三〇年以上が経過し、本書がなお読まれるに耐える、いや今日こそ読まれるべきテキストであることを証ししているのである。

（しおのや・きょうすけ 東京大学大学院人文社会系研究科）  
（四六変型判・二二〇頁・定価二七五〇円・新教出版社）

ヨベルの新作・重版案内

鎌野善三 (日本イエス・キリスト教団 西宮聖愛教会牧師 待望の新作！)

### チャレンジ！ 聖書通読

全篇書き下ろし！

「やらなくちゃ」「読まなくては」「今回こそ」では続かない！ 秘訣は何だろっ！

「痛読」からの大転換、役立つヒントが満載。これでだめなら諦めましょう。3分間のグッドニュース「シリーズ」[全5巻]の著者が贈る、手引書！ 新装判美装・一六〇頁・二〇〇円

鎌野善三 (日本イエス・キリスト教団 西宮聖愛教会牧師 各巻重版準備中)

### 3分間のグッドニュース「福音」

聖書通読のためのやさしい手引き書

イエスが、ペテロが、パウロが、ヨハネが生き生きと迫ってくる新約全27巻。3分で一章まるっと呑み込める！

再版出来！ A5判美装・二七二頁・二七六〇円  
10月重版出来！ 3分間のグッドニュース「歴史」

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

深い闇の中で  
朝の到来を信じる

〈評者〉 関田寛雄

ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む  
奥田知志

ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む

奥田知志著



本書は、「皆さん、おはようございます。オンラインで参加の方々もおはようございます」という言葉で始まる東八幡キリスト教会の礼拝説教の集成であり、著者にとって初の説教集でもある。著者は周知のごとくホームレス支援全国ネットワークの代表として多くの講演もし、NHKの諸番組にも登場している牧師である。

著者は三十有余年に及ぶ北九州のホームレスの方々との出会いの中で、「神不在」の悲惨な状況に巻き込まれつつ「不在の神に祈る」(シモーン・ヴェイユ)、「神の前に神と共に神なしで生きる」(ボンヘッファー)という信仰を養われてきた。だから「キリスト教徒にならないと救われたい」というような「スケールの小さい」キリスト教とはつきり決別する。学生時代に大阪・釜ヶ崎での労働者との出会いから始まった著者の働きは、その現場の中に隠されたイエス

との出会いに触発され、一人一人の物語の中にイエスの生きて働く姿を見出し、それに導かれて牧師を続けている。

それゆえ本書を別の表題で表すとすれば『オクダによる福音書——あなたを招く慰めと希望の言葉』となるべきだろう。その説教の特質は第一に、分かりやすい生活の言葉で語られていることだ。関西弁で著者独特のリズムで語っている。第二に、具体的な例証、なかならずホームレスの方々との出会いの文脈を通して、聖句を新鮮に輝かせていることだ。第三に、多くの苦難を十字架と復活の信仰によって超克した方々から引用し、読者の心を揺さぶる感動を引き起こすことだ。第四に、自分についてのユーモアたっぷりの表現が、説教を聴衆にとって極めて身近なものとしていることだ。第五に、十字架と復活の信仰告白が本書に一貫していることだ。それは「悔い改め」を強調する

ルカ福音書の中にすら、「悔い改め」なるものを知らない者をも包摂し、癒やし、希望をもたらす福音を見出す。それこそ彼が長年の時を費やし、近隣の住民の反対にも打ち勝って設立したホームレス自立に向けての施設「抱樸館」の精神でもある。抱樸とは、切り倒されたゴツゴツしたありのままの木をそのままに包摂する精神である。

圧巻は、表題ともなっている説教「ユダよ、帰れ——ホームとは何か」である。従来キリスト教会では、イエスを裏切った極悪人としてイスカリオテのユダこそ救われない人間として伝統的に語り継がれてきた。ペテロをはじめ十一弟子もイエスを捨てて四散した。しかしユダだけは自分の非を認め銀三十枚も祭司長、長老たちに返しに來た。しかし彼らは言った、「それは、われわれの知ったことか。自分で始末するがよい」と。いわゆる自己責任論である。追いつめられたユダは首をつって死んだ。著者はさらに言う。「彼は帰る場所を間違った。赦しのない場所に帰ってしまった。……もし、ユダが帰るべき場所、「ホーム」に帰れたら、彼は生きられたと思います」。そして著者は、地獄に落ちたユダに対して、イエスに次のように語らせる。

「ユダよ、帰れ。お前が帰るべきは私のところなのだ。」

私こそがお前の帰る場所、ホームなのだ。私はお前よりも先に地獄に下り、お前の受けるべき裁きを受けた。お前の罪は裁かれた。大丈夫だ。お前は赦された罪人としてこれからも生きるのだ。私と一緒においでなさい。さあ帰ろう。ユダはイエスに抱きとめられ天へと昇っていきました。イエスの懐に抱かれたユダは、まるで赤ちゃんのように大声で泣き続けました。その日、ユダは帰郷を遂げたのでした。以上が『オクダによる福音書』です(二〇〇頁)。

筆者はここを読むたびに涙を催す。東八幡キリスト教会の地下には納骨堂が設置されている。ハウスにもホームにも恵まれないまま世を去った方々の遺骨が何百体も納められている。そこに入る扉には「わが父の家には住まい多し」と刻まれている。かつてこの場に立って筆者は言葉を失い、神の憐れみをそのまま象徴する納骨堂を設置した著者の心を思い、この時も涙に導かれた。

本書に引用されている五木寛之の言葉に因んで本書の内容を一句で表せば、

アサガオは光を待ちて闇に咲く

(せきた・ひろお 日本基督教団神奈川教区巡回教師)  
(四六判・二六八頁・定価一九八〇円・新教出版社)

# 東西霊性の在を照らす

〔評者〕片柳榮一



## 東西の霊性思想

キリスト教と日本仏教との対話  
金子晴勇 著



人間学的視点という明確な方法論をもってキリスト教思想史研究の分野でいつも新鮮な刺激を与えて続けてきた著者は近年、その方法をさらに霊性思想において深め、旺盛な著作活動を展開している。そしてその探求の一つの到達点が本書『東西の霊性思想』と言えよう。単に東西の思想を比較しているのではなく、著者が長年その研究に打ち込んできたキリスト教思想と、私たちがそこに生きている日本の文化・思想、殊に仏教を、豊富な文献を用いて精査し、自らのうちに見つめ直しているのである。

「霊性」というそれ自体概念化しにくい事柄に、著者はその機能面より接近し、そこに三つの基本的な働きを見ている。一つは感得作用であり、「外的な感覚ではなく、心の奥深く感じ取ること」(25頁)であるという。このことを明瞭に表明しているのはパスカルであり、「神を直観す

るこれまでのヨーロッパ思想の受容は生命の根源である霊性を除いた、亡霊となった屍を有り難く採り入れたにすぎなかった。したがってヨーロッパ思想の生命源である霊性を学び直すことは今日きわめて重要である」(16頁)。

この書の導きの系になっているのは、西田幾多郎の次の言葉であろう。「われわれの自己の根底には、どこまでも意識的自己を越えたものがあるのである。これは我々の自己の自覚の事実である。自己自身の自覚の事実について、深く反省する人は、何人もここに気附かなければならない。鈴木大拙はこれを霊性といふ」(19頁)。著者はこのような問題意識をもって、旧新約聖書、キリスト教教父、神秘主義者、ルターを始めとする宗教改革者などのキリスト教の霊性思想と、万葉集以来の日本文学や、また鎌倉仏教にお

るのは心であって理性ではない。信仰とはそういうものなのだ。心に感じられる神」(パンセ「たせ」であるという。第二は自己を越えて神に向かう超越作用である。これはアウグスティヌスの次の言葉に最も明らかに示されている。「外に出て行こうとするな。汝自身に帰れ。内的人間の内に真理は宿っている。そしてもし汝の本性が可変的であるのを見出すなら、汝自身を超越せよ」(『真の宗教』XXXX, 72)。そして第三の機能は、心身を統合するものとしての霊の作用であるという。そして著者は現代、ことに日本の大きな危機の根源を、こうした霊性が無視されてきていることに見ている。「これまで日本では明治以来、ヨーロッパ文化は近代化や合理化の典型として賛美され、模倣されてきた。それゆえヨーロッパを学ぶことは。ルネサンス以降の近代化と合理化を学ぶことであつた。……ところが日本にお

いて類まれな形で現れた日本の霊性の特徴、さらには白隠、明治のキリスト者、植村正久、内村鑑三、またあまり知られていなかった新井奥彦や綱島梁川(りょうせん)の神秘主義的体験にもみられる霊性思想を丹念に掘り起こしている。法然や親鸞の凄絶なまでの「如来の本願に対する絶対信仰」(124頁)をあらためて丹念に教え示され、著者の共感の深さにも感銘を覚える。

今日日本に生きる私たちは、霊性という点においては、果たさない荒野の中に打ち棄てられている。まさしく生ける命の源を断たれているかの如くである。そのような中で本書は、命の水の在り処をはっきり示している。

(かたやなぎ、えいいち) 聖学院大学客員教授  
(四六判・二八〇頁・定価一九八〇円・ヨベル)

ヨベルの月刊 / 近刊案内

「ヨーロッパ思想史」

金子晴勇

キリスト教思想史の諸時代Ⅳ

エラスムスと教養世界

全巻(予約)承り中

キリスト教思想史の諸時代Ⅳ

「ヨーロッパ精神の源流」(既刊)

Ⅰ「ヨーロッパ精神の源流」(既刊)

Ⅱ「アウグスティヌスの思想世界」(既刊)

Ⅲ「ヨーロッパ中世の思想家たち」(既刊)

Ⅳ「エラスムスと教養世界」(最新刊)

Ⅴ「ルターの思索」(第五回巻・編集者)

Ⅵ「宗教改革と近代思想」(第六回巻)

Ⅶ「現代思想との対決」(第七回巻)

別巻1「アウグスティヌスの霊性思想」

別巻2「アウグスティヌス三位一体論の研究」

金子晴勇 東西の霊性思想 キリスト教と日本仏教との対話

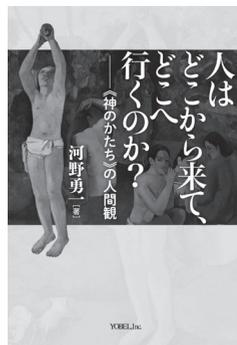
大友倫 四六判下製・288頁・1,320円

新書判・平均256頁  
各巻1,320円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

## 人間とは何か、という 問いへの明快な答え

〈評者〉 山口希生



人はどこから来て、  
どこへ行くのか？  
《神のかたち》の人間観  
河野勇一著



「人はどこから来て、どこへ行くのか？」《神のかたち》の人間観は、タイトルの通りに「人間」とは何なのかという根源的な問いをキリスト教の視点から実に丁寧に、明快に解説した良書です。河野勇一氏は本書の中で、**関係概念、実体概念、目的概念**という三つの切り口から立体的に人間存在の本質に迫っています。

人間と他の生物との違いは何か、という問いに対しては、例えばユヴァル・ハラリならば、人間は通貨や国家のような「虚構」概念を発案し、共有するという独特の能力を発達させたことで他の生物とは異なる存在となった、と答えるでしょう。そして、「虚構」の最たるものが「神」の概念だということになるでしょう。しかし、ハラリといえども、神を人間のイマジネーションが生み出した「虚構」だと証明することはできません。むしろ、キリスト教の視

点からは、人間を他の被造物から区別する最大の特徴は神との人格的交わりを持つことにあり（**関係概念**）、それは人間が神の霊を与えられた霊的存在であるからこそ可能なのです（**実体概念**）。さらに人間が他の被造物とは異なるのは、神から地を治めるといふ生きる目的を与えられていることです（**目的概念**）。

人が神を否定しようとする傾向を持つのは、罪の結果として霊的部分に欠損が生じてしまい、神との良好な関係が失われてしまったためだ、というのが聖書的な見方です。したがって、キリスト教の提示する「救い」とは、人間が本来あるべき状態、つまり神との交わりを持つ存在に復帰することだということになります。この視点から、「義とされる」ということの意味を考えることは実に重要なのですが、本書はこの点を見事に説明しています。河野氏は「義

である」ということが西洋のキリスト教（カトリック・プロテスタント双方）の伝統では**実体概念**として、つまり人間が「義」という実体的な属性を所有しているかどうかという観点から捉えられてきたと指摘します。「義」を十分に持たない人間が義となるためには、不足している義を神から注入してもらおうか（カトリック）、あるいはキリストが有する義を虚構的に自らの義として見なしてもらふ必要がある（プロテスタント）、ということになります。しかし、「義である」とは、人間が神の目から見て「義」を十分に持っている（あるいは持っている）と見なされる）かどうかという問題ではない、と河野氏は論じます。むしろ「義である」とは**関係概念**、つまり人が神と正しい関係にあるかどうかという問題であり、したがって「義とされる」とは、神との正しい関係に引き戻されることなのだ、と指摘しています。このことは、まさに近年の聖書学が主張していることであり、私も聖書学の徒として本書がこの点を明快に論じていることに大いなる喜びを覚えました。

また、贖罪論についても**実体概念**ではなく**関係概念**から捉えていることも本書の重要な貢献です。つまり罪と十字架の関係について、実体的な公正（あらゆる罪は罰されなければならぬという要求）を充たす必要があるという視

点よりも、神と人間との壊れた関係を修復するために罪は克服されねばならないという視点から捉えています。その結果、神の（罰する）義と（赦す）愛という矛盾を調停させるものとしての十字架、というような見方からは自由な神の愛の十全な表明としての十字架という視点が明確に浮かび上がってきます。ぜひ本書そのものを手に取って、これらの重要な神学的問題についての河野氏の見事な解説を味わっていただきたいと願っています。

（やまぐち・のりお 日本同盟基督教団中原キリスト教会牧師）  
（四六判・四〇〇頁・定価二二〇〇円・ヨベル）

**村椿嘉信著 \*絶賛発売中\***

### 荒れ地に咲く花

生きることを愛すること

荒れ地に咲く花

生きることを愛すること

村椿嘉信

四六判・160頁  
定価 1,320円  
ISBN978-4-909871-43-5

混沌とした時代にあつて、社会のさまざまな問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。イエスは「愛すること」が決定的に重要だと指摘した。

**ヨベル YOBEL Inc.**

お問い合わせ: [info@yobel.co.jp](mailto:info@yobel.co.jp)  
情報: <http://www.yobel.co.jp>

十七世紀と現代を橋渡しする、  
厳密さと配慮に満ちた翻訳

〈評者〉青木義紀



三訂版  
ウエストミンスター  
信仰規準  
松谷好明訳



二〇一二年は、ウエストミンスター研究にとって重要な年となった。チャド・ヴァン・ディクソンという研究者の編著によって、『ウエストミンスター神学者会議議事録と会議関連文書』(The Minutes and Papers of the Westminster Assembly 1643-1652, 5 vols. [Oxford, 2012]) という膨大な資料と研究が出版されたからである。これによって会議の具体的な内容がより一層明らかとなり、信仰規準成立の背景にある議論ややり取りが知られるようになった。しかし訳者である松谷氏は、この出版のはる前から、すでに会議の議事録や関連文書に直接当たり、独自の研究を進めてきた。その蓄積は、すでに様々な著書や訳書によって日本に紹介されている。間違いなく、我が国のウエストミンスター研究の第一人者である。

松谷氏のウエストミンスター信仰規準(信仰告白・大教

した訳者が、現代日本人の神学理解を考慮して、絶妙な訳語・訳文を当てている。また全体を読むと、他の箇所での使用例を踏まえた上での訳語選択をしていたことに気付かされる。実に全体を見、バランスを考え、考え抜かれた訳である。氏は現在、信仰告白の注解書を準備中と聞く。詳しくは、その出版に期待したい。

第二は、特に信仰告白に当てはまるが、どんなに長文であっても一文を一文として訳し、本来の論理展開や教理命題をそのまま提示することに徹した点である。これは、訳者の以前からのこだわりであったが、今回より一層徹底させたと言える。これにより、信仰告白の構造にラームスの二分法が使われていることを明らかにした。これは画期的な成果である。本文七頁にある分析表は、全体の構造を理解するのにきわめて有益である。

第三は、重要な訳語にルビを振り、原文の英語を明記した点である。これにより、原文のニュアンスを知ることができ、教理と神学のさらなる学びへの糸口とすることもできる。

理問答・小教理問答(以下「ウ規準」と略記)の翻訳は、これで三度目。前回の改訂版から二十年ぶりの翻訳である。氏が一貫して主張するウ規準の基本的性格は、プロテスタント宗教改革の総決算、イングリランド・ピューリタニズムの精華、リフォームド・エキュメニズムの三点であり、本来の歴史的文脈に沿って本文を解釈することの重要性を変わらず訴え続けている。そうすることで初めて、現代的な意義も生まれるという。ここには、聖書解釈のあるべき基本姿勢にも通ずる、信条文書を読む上での重要な態度が窺える。

今回の「三訂版」の特徴は、以下の三つの新機軸にある。第一は、最新の翻訳、研究、注解を網羅し、これらを踏まえた上で、訳語・訳文を練り直した点である。一見すると、「なぜ？」と思う翻訳もあるが、当時の議論と背景を熟知

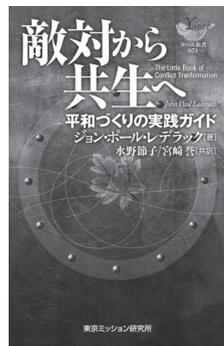
序文や凡例の中には、訳者による他翻訳に対する学的批判や自身の訳へのこだわりが明確に記され、それもまた訳者の研究者としての誠実さを窺わせる。今回の翻訳は、当時の会議を彷彿とさせ、関わった神学者(牧者)たちの息吹を感じさせる翻訳と言える。そしてそれを、現代の日本人に最も的確に届けるために推敲された配慮に満ちた翻訳でもある。今後我が国においてウ規準は、この翻訳抜きには語れないだろう。訳者の長年の研究と、推敲に推敲を重ねた訳業に、ただただ敬服する次第である。

(あおき・よしのり) 日本同盟基督教団和泉福音教会牧師、東京基督教大学非常勤講師)

(A5判・三七〇頁・定価二四二〇円・一麦出版社)

## 紛争から望ましい状態への 変革がはじまる

〈評者〉久保木聡



### 敵対から共生へ

平和づくりの実践ガイド

ジョン・ポール・レデラック 著

水野節子、宮崎 誉共訳

西岡義行編



「教会の献金箱に入っていた献金が盗まれた！」

そんなことがあったら、あなたはどのようなだろうかと、またま別用で撮っていた動画に、盗む場面が写り込んでいて犯人が見つかった場合、いったいどうするだろうか？本書では「紛争解決」や「紛争管理」よりも「紛争変革」を大切にしている。献金が盗まれたら、盗んだ人を出入り禁止にすれば、献金が盗まれることのいざこざは解決するかもしれない（紛争解決）。はたまた、盗みが起こらないように献金の管理システムを整え、監視カメラなり、頑丈な献金箱にすることも大事かもしれない（紛争管理）。しかしそれでは「紛争変革」にはならないのだ。

盗んだ人の背景に、貧困があるかもしれない。もしくは教会内である人たちがばかりに注目が集まり、注目されていない寂しさが盗難に駆り立ててしまったのかもしれない。

中南米、アジア、ヨーロッパの各地で紛争の調停や助言（コンサルテーション）、対話の支援を行ってきたことが本書の中でも紹介されている（一一〇頁）。立正佼成会には毎年、宗教的精神に基づいて、宗教協力を促進し、宗教協力を通じて世界平和の推進に顕著な功績をあげた一名または一団体を対象にして表彰する庭野平和賞というものがある。二〇一九年に、レデラックはこの庭野平和賞を受賞している。副賞は賞金二十万円とのこと。つまり、乱発してもてはやするような軽しい賞を受賞したのではない。彼の働きは他宗教団体が大いに認め、賞賛するほどの実績があるものなのだ。

わたし自身は、レデラックの手法とは多少違う「NVC（非暴力コミュニケーション）」という紛争から和解に向か

つまり、盗難は教会が貧困に目を向け、自分たちのできることを問い直し、自らを変革する機会にもなりうるし、もしくは教会内である人たちが冷遇されていることに気づき、教会を変革する機会にもなりうる。しかし、そのことに目を向けず、盗んだ人を出入り禁止にしたり、監視カメラや頑丈な献金箱を設置したりするだけでは、せつかくの変革の機会を逃してしまうことになる。

本書は「衝突はひとつの機会、賜物です」（三五頁）と語る。つまり、盗難は教会が変革されていくための機会を提供する賜物となり得るのだ。

著者ジョン・ポール・レデラックは米国コロラド大学で博士号を取得した社会学者であり、ノートルダム大学（インディアナ州）のジョン・クロック国際平和研究所で国際平和構築論を教えてきた。そればかりか米国のみならず

う手法を実践し、シェアしている。とはいえ、十一年前に刊行された本書を読むたびに新たな発見があり、コンパクトな本であるにもかかわらず、その内容の豊かさに驚かされ続けている。実際に紛争／衝突に関われば関わるほど、紛争／衝突がギフトであることの深みに触れ、レデラックが本書で述べているとおりだと感嘆させられている。

以前はA5判で発行されていた本書がこのたび、新書版で発行されることとなった。より手軽に持ち出して、いろんなところで読むことができるようになった。そんなわけで、紛争／衝突の先にある恵みの世界を味わってみたい人には、ぜひとも本書をどこでも手に取ってじっくりと味読してほしいと願っている。

（くぼき・さとし 日本ナザレン教団鹿兒島教会牧師）

（新書判・一五二頁・定価二二〇円・ヨベル）



三訂版

## ウェストミンスター 信仰規準

松谷好明\*訳  
MATSUTANI Yoshiaki



ウェストミンスター信仰告白が、ラームスの〈二分法〉によって構成されていることを鮮やかに浮かび上がらせる！最新のクリティカル・テキストを用い、新機軸を打ち出した決定版。

四六判

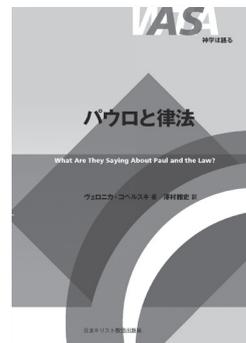
定価 2,420 円 [本体 2,200 円 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-135-9



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

# 再検証される「パウロの律法観」 百家争鳴の議論を整理する書

〈評者〉 浅野淳博



神学は語る  
パウロと律法  
ヴェロニカ・コベルスキ著  
澤村雅史訳



ヴェロニカ・コベルスキ著『パウロと律法』は、使徒パウロがユダヤ律法をどのように考え、どのように教えていたか、という問題に関する聖書学上の議論を総覧することを目的としている。著者はこれをジョセフ・プレヴニク著『パウロについて語られていること』の補完となる書と位置づけているが、その焦点は律法と義認論との関係性という非常に限定された主題を扱っている。

とくに宗教改革以降、ユダヤ教から回心したパウロが、ユダヤ律法に則して功徳を積み上げることと救いを得るユダヤ教の救済の仕組みを行為義認という呪いとして断罪した、という理解が一般に受け容れられ、これはそのまま現代にいたるキリスト教会によるユダヤ教とユダヤ律法に関する姿勢に明らかな仕方で反映されている。それはたとえば「(信仰義認の恵みのゆえにユダヤ教における)すべて

の「汝すべし」は取り去られた」というW・ヴレーデの印象的な言葉に代表される (Paulus, 1904)。

したがってこのいわゆる〈古い視点〉を、一九七七年に公刊されたE・P・サンダース著『パウロとパレスチナ・ユダヤ教』が論破し尽くしたことは、キリスト教会にとつての一大事件となり、その影響は現代にまで及んでいる。サンダースはユダヤ律法を、救いにいたる契約の共同体で契約の民が生きるための道しるべとして神がその恵みゆえに与えたものであり、律法違反によって契約関係が損なわれた者を回復する贖いの手段をも提供する制度、すなわち〈契約維持の律法制〉であると説明した。

この〈新たな視点〉によってパウロとユダヤ律法との関係性が見直されはじめて四十年が経つ。それ以来、律法を肯定的あるいは中立的に捉えるパウロが提供する倫理的勸

告は行為義認にならないか(たとえばライサネンはパウロ

の言説に矛盾を見出す)、パウロの信仰義認と倫理的勸告の関係性をどう理解すべきか(たとえばシュライナーは祭儀律法と道徳律法とを区別してこのバランスを維持しようとする)、そもそもサンダースが描くユダヤ教とユダヤ律法の姿は適切か(たとえばシルバは初期ユダヤ教に律法主義的特徴が存在するという古い視点に固執する)、パウロはいかなる宗教を提供しようとしたか(たとえばシールマンはエゼキエル等によって始まる新たな契約をパウロが継承したと考える)、ユダヤ律法を肯定的に捉えるパウロはなぜ回心したか(たとえばローランドはパウロの回心をユダヤ教内における宗派の鞍替えと考える)、等の議論が継続しており、本書はまさにこれらの議論を整理整頓して読

者に提供するよう試みている。

D・ムーはサンダース著『パウロとパレスチナ・ユダヤ教』の公刊を機に開始した百家争鳴ぶりを以下のように評した。「パウロの律法批判に関する議論は宙に浮いたままである。……何らかの解決が見出されなければならない状態が続いている」(Scottish Journal of Theology, 40 [1987])。ある意味で本書がこの四十年間の混沌ぶりを反映していることは否めない。それでも読者は本書をとおして、混乱をきたしているパウロ神学の一面面を理解するためのある程度の筋道を見出すことになるだろう。

最後に翻訳の労をとられた澤村氏に感謝する。

(あさの・あつひろ 関西学院大学神学部教授)

(A5判・一九二頁・本体三七四〇円・日本キリスト教団出版局)

感染大国アメリカの  
医療現場で最前線に立つ  
病院聖職者チャブレンの  
激闘の記録



# ひとりでは死なせはしない

日本人牧師、アメリカでコロナ患者を看取る 関野和寛

型破りな牧師として知られる著者の次の挑戦は病院聖職者、チャブレン。2020年夏に渡米し、ミネアポリスの病院でコロナ病棟を中心に働く。絶望する患者に寄り添い、時にその最期を看取り、家族もケアする日々の奮戦記。著者が最強と称する、12人に及ぶチャブレンチームでの交流も描く。 四六判 並製・128頁・定価1430円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)  
<https://bp-uccj.jp>

## 聖書協会共同訳準拠の「詩編」ガイドブック

「主は私の羊飼いで 私は乏しいことがない」

ユダヤ教、キリスト教の伝統の中で歌い継がれてきた「詩編」格好の入門書



### 聖書協会共同訳 **NEW** **詩編** をよむために

多様な読み方が可能な詩編を、最新の聖書協会共同訳で味わうための道先案内となる、ガイドブックです。聖書協会共同訳の詩編の翻訳事業に携わり、各専門分野の第一線で活躍中の先生方による、それぞれの視点からの行き届いたレクチャーが、詩編の豊かな世界へ導きます。

A5判、並製本、ジャケット掛け、160ページ

発行元：日本聖書協会

税込価格 **1,210円**

(本体1,100円)

ISBN978-4-8202-9280-7



『詩編をよむために』  
 各項目の  
 タイトルと執筆者

- 「詩編の基礎知識—構成、技法、研究史、そして……」 飯 謙
- 「詩編に親しむ—心に泉を」 春日 いづみ
- 「川のある風景」 石川 立
- 「天を仰いで神に歌う—悲しみ、嘆き、報復の詩がなぜ詩編にあるのか」 石田 学
- 「詩編を日本語で歌う—「典礼聖歌」を手がかりとして」 西脇 純

### 参考書籍



### 詩編 (抜粋)—主は王となられた—

聖書協会共同訳の13の詩編が付いた「詩編」ガイド。スモールグループでの聖書の理解に役立ちます。元日本聖書協会翻訳部主事、現「聖書を読む会」総主事・鳥先克臣氏(元牧師、ヘブライ言語学博士)監修。

A5判、並製本、96ページ 発行元：聖書を読む会

税込価格 **770円**(本体700円) ISBN978-4-915748-19-6

「詩編 (抜粋)—主は王となられた—」は聖書を読む会の発行となります。お問い合わせは、下記までお願いいたします。  
**聖書を読む会**  
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル内  
 e-mail: sykoffice21@gmail.com http://www.syknet.jimdofree.com/



■お求めは全国のキリスト教専門書店またはwebへ

**JBS 日本聖書協会** 〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目 5-1 聖書館ビル  
 e-mail: distri2@bible.or.jp https://www.bible.or.jp/



## 東西の霊性思想

金子晴勇「著」

ヨーロッパ思想史、岡山大学名誉教授、聖学院大学名誉教授

四六判上製・二八〇頁・一九八〇円

キリスト教と日本仏教との対話



西行や良寛を読むと心が澄み渡り、法然や親鸞に信心は鼓舞される。ルターと親鸞はなぜ、かくも似ているのか。キリスト者が禅に共感するのはなぜか。多くのキリスト者を悩ませてきたこの難題に「霊性」という観点から相互理解と交流の可能性を探った渾身の書。

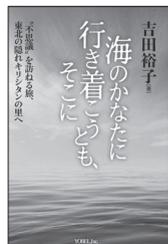
ISBN978-4-909871-53-4

## 吉田裕子「著」 海のかなたに行き着くことも、そこに

吉田裕子「著」

(日本基督教団 鎌ヶ谷教会員)

四六判並製・二六四頁・一六五〇円  
 ISBN978-4-909871-56-5



「不思議」を訪ねる旅、東北の隠れクリスチャンの里へ。曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも、そこにもあなたはいますし、わたしを導きとらえる……。ダビデの賛歌を自身の生涯の子守歌に、かつての故郷、宮城県米川村に受け継がれ、自身の中にも流れ込むことになったキリスト教信仰の源流を訪ねる旅。

ISBN978-4-909871-57-2

## ハロルド・S・クシュナー 小西康夫訳 人生の8つの鍵



ユダヤの知恵に聴く!

善人は善そのもの。惜しげもなく善を行う。同時に悪いこともする。人間だからラビによる人生の指南書!

四六判・二二二頁・一七六〇円

## 河野勇一「著」 人はどこから来て、どこへ行くのか?



ゴーチヤンが畢生の大作に込めた究極の「問い」を《神のかたち》のスキーマに基づいて解き明かす渾身の書。

四六判上製・四〇〇頁・二二〇〇円

## 塩屋弘「著」 祝福された人生の秘訣



神の命令に従うのは「不自由で戒律的な生き方」という先入観や誤解を親切に解きほぐす「聞く—シリーズ」第2弾。

四六判・一五二頁・一四三〇円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritkan_systen_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 教団センター・イマフ	022-223-2736	共用		fcqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリスチャペル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.lighting.jp/~yokohamais/mbs.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-inei.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-inei.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacds.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびらすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.gvotcs.jp/rokyo/107/index.html	sksch@ddokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

## INFORMATION

### 近刊情報

■新教出版社  
**アーバンソウルズ**  
 黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー  
 オサジエフォ・ウフル・セイクウ著  
 山下壮起訳

差別、貧困、警察暴力に包囲された黒人青年たちの救いはどこにあるのか。後期近代の都市における物質的・空間的荒廃から発現したヒップホップの霊性を証しする、戦闘的牧師・神学者による黒人神学の最前線。  
 B6変型判・144頁・予価2200円

四六判・182頁・予価1870円

■キリスト新聞社  
**ボクたちは軍国少年だった!**  
 平和を希求するふたりの自伝  
 深田未来生、木村利人共著

戦時中「少国民」として軍国教育を受け、戦後、価値観の大変革で何も信じられなくなった「万年反抗期」のふたりが、どのように平和を愛する者になっていったか。人生を振り返りながら、未来へのメッセージを語る。  
 四六判・143頁・定価14300円

■教文館  
**キリスト教教義学 上**

近藤勝彦著

日本を代表する神学者によるキリスト教教義学の決定版! 上巻では本書の構想と特徴を明らかにした上で、啓示から贖罪論までが扱われる。

A5判・1210頁・定価14300円

■日本キリスト教団出版局  
**見えない神を信ずる**

—— 月本昭男講演集

月本昭男著

長年旧約聖書への学究を深めてきた著者による講演集。聖書に描かれることばや出来事の意義のみならず、信仰の深みをも解く一冊。

四六判・208頁・価格未定

# 福音と世界

2022年1月号

## 特集 インフラの解放

寄稿者＝原口剛、有住航、大野光明、大畑凜  
阿部小涼、デヴィッド・グレーバー

エバハルト・ユンゲル追悼(福嶋揚)、並木浩「ヨ  
ブ記注解」書評(月本昭男)／新連載ルカ福音  
書(山崎ランサム和彦)／好評連載 霊性のエコ  
ロジー(村澤真保呂)、I Saw a Little Prayer 開  
かれる世界(栗田隆子)、福音のフラグメント(有  
住航)、教父学入門(土井健司)ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

新型コロナウイルス感染者の、減  
少傾向が報道される中でこの原稿を  
書いている。

吉本ばななが公の場で発表する文  
章は、どんな状況であつても前向き  
でなければならぬと言っていたの  
に倣い、文案に乏しい筆者も心がけるようになってきた。し  
かし、長い自粛生活において身についた用心深さは、執筆  
においても厳しい。

『少女パレアナ』はそんな中、記憶の彼方から呼び戻し  
た小説。どんな困難な状況に陥つても、そのことによつて  
生じたプラスを探し、喜びを見出す少女の物語を遠い昔に  
読んだ。同時に少女の誰からも愛される天真爛漫な人物像  
に、捻くれ者は少々辛い気持ちになつたことも思い出した。

## 予告

### 本のひろば

2022年2月号

## 本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 飯田 仰、(書評) 三浦永光著『聖  
書と農』及川 信著『ルカ福音書を読もう』下、  
大頭眞一著『何度でも何度でも何度でも愛』民数  
記、ペリー・B・ヨーター著『シャローム・ジャ  
ステイス』、袴田康裕訳『ウエストミンスター大  
教理問答』、M・デイベリウス著『牧会書簡注解』、  
大貫 隆著『イエスの「神の国」のイメージ』、  
小友 聡著『旧約聖書と教会』他

しかし、この約二年間を振り返れば、少しでも良い方向  
へ考えようとする力が無意識に働いていたように思う。コ  
ロナ禍にあつて自身のパレアナ的要素を発見した！

また様々な場所で、「今こそできる！」「やってみよう！」  
と言う類の言葉を聞き、そんなときは大変励まされた。

パレアナも周囲の人の潜在能力を引き出した。登場人物  
のひとりである牧師先生も、パレアナの明るさに力を得て、  
教会が抱える問題に「神よ助けたまえ、かならずやってみ  
る！」と思い、礼拝説教で本書の主題とも言える聖句を取  
り上げる。

「たゞしき者よエホバを喜びたのしめ 凡てこゝろの直  
きものよ喜びよばふべし」 詩篇32篇11節(文語訳)

励ましは前向きな活力。新しい年も、多くの喜びが見つ  
かる年となりますよう、お祈り申し上げます。(吉崎)



# ヨハネ福音書を 讀もう上 対立を超えて

松本敏之 2021年12月15日刊行予定

差別と分断が深まる現代。この対立を超えることばを、ヨハネ福音書を通して伝えられるイエス・キリストの福音に聴く。上巻は10章までの黙想41編を収録。

◆四六判 並製・240頁・定価2,640円

著書  
好評発売中

- 『マタイ福音書を読もう1 一步を踏み出す』 定価1,980円
- 『マタイ福音書を読もう2 正義と平和の口づけ』 定価1,980円
- 『マタイ福音書を読もう3 その名はイエス・キリスト』 定価1,760円

## ニューセンチュリー聖書注解

# 哀歌

最終回  
配本

\*ニューセンチュリー聖書注解シリーズは『哀歌』をもって配本を終了いたします

イアン・W. プロヴァン 渡邊さゆり 訳

悲嘆と訴えの詩歌、哀歌。全体の構造・特徴、時代背景、詩に込められた神学、次々と入れ替わる話者の問題等を整理して解説。定評ある堅実な注解シリーズ最終巻。

◆A5判 上製・194頁・定価5,500円



# 宣教の未来 五つの視点から

日本基督教団宣教研究所委員会 編 【発行】日本基督教団宣教研究所

霊性の回復、持続可能な規模、日本人の宗教性とキリスト教、付属幼稚園・保育園の利点と課題、SNSと伝道……現代の宣教における諸問題について、各分野に取り組んできた現役牧師たちが考察。

◆A5判 並製・238頁・定価1,650円

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可  
二〇二二年一月一日発行 毎月一回一日発行  
本のひろば 第七六九号 二〇二二年一月号

発行所 〒150-8521 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話 〇三-三三六〇-一六五二 振替 〇一七〇-五一一六七九  
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷株式会社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話 〇三-三三六〇-一五六〇

定価 七八円(税抜 七円) 763円  
一年分 一三〇〇円(送料共)

12月の新刊 (価格表示は税込)

## 近藤勝彦の「キリスト教組織神学」三部作

# キリスト教教義学 上

近藤勝彦 著

日本を代表する神学者によるキリスト教教義学の決定版！



聖書神学を尊重し、遠大な神学史・教義学史を検討し、現代世界の思想的難題にも応答した教義学の記念碑的著作。上巻では本書の構想と特徴を明らかにした上で、啓示から贖罪論までが扱われる。

● A5判・上製・1216頁・定価14,300円

好評発売中！

## キリスト教倫理学

近藤勝彦 著

プロテスタントの伝承資産を継承・深化・活性化しつつ、現代の倫理的諸問題に取り組む。終末論的救済史の中に教会とその伝道を見据えた体系的意欲作！

● A5判・上製・528頁・定価5,060円

## キリスト教弁証学

近藤勝彦 著

諸宗教との軋轢が起る現代社会に生きる私たちに、確固たる伝道的基盤を提示してくれる画期的な書。

● A5判・上製・664頁・定価6,380円



キリスト教古典叢書

## アシジの聖フランシスコ・聖クララ著作集

アシジのフランシスコ／アシジのクララ 著

フランシスコ会日本管区 訳・監修

霊性を深めるための源泉資料、最新の校訂本に基づく翻訳

中世最大の聖人フランシスコが遺した全作品の集成。「兄弟なる太陽の賛歌」に代表される賛歌と祈りをはじめ、手紙、会則、遺言など、偉大な師父の神理解と福音的精神を伝える貴重な文書群。教会史上初めて女性のための会則を編んだ、彼の後継者・聖女クララの全著作も併録。

● A5判・上製・316頁・定価5,280円



好評発売中！

## アシジの聖フランシスコ伝記資料集

フランシスコ会日本管区 訳・監修

中世最大の聖人に関する最初の証言を集成した源泉資料集。初の邦訳を含む聖人伝8作品と付録を収録。

● A5判・上製・528頁・定価5,060円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
電話 03-3561-5549 (出版部直通) (星・図書目録)

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)  
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！

